



鯉沢中部小学校だより

せおと

平成23年6月13日 第3号 発行者 校長 岡崎紀子

本校のアマリリス開花 H23. 5. 18

プール清掃・リサイクル活動 御協力ありがとうございました！

6月4日(土)は早朝よりプール清掃、リサイクル活動への御協力ありがとうございました。本校児童と職員20名では、一日かかっても下の写真にあるようなプールに変身することができませんが、地域有志・他校の保護者・卒業生親子・ふじかわ分校職員16名・本校の親子・職員、総勢66名の皆さんのおかげで2時間余で“リゾートCHUBU”に大変身しました。

6月13日のプール開きの儀式では、安全祈願と泳力向上を誓いました。保護者の皆様にはプール当番をお願いしていますが、よろしく願います。

続いて行われたリサイクル活動では、地区の皆さんの御理解やリサイクル活動へ協力依頼のチラシ、区内放送が功を奏して、たくさん回収することができました。この活動によって「緑の地球」が守られ、195本の立ち木(直径15cm)が救われました。回収量は次のとおりです。

なお、リサイクル活動収益金は、スキー教室インストラクター代、遠足や観劇教室補助等、有効活用させていただきます。ありがとうございました。

段ボール=1320kg 新聞=3870kg 雑草=3160kg チラシ=1360kg
牛乳パック=50kg 合計=9760kg 空びん=413本



国際理解学習“中国 雲南省のくらし”

6月6日(月)に元増穂小学校校長宮沢千秋先生をお迎えして、中国雲南省の棚田の風景と少数民族の暮らしぶりについて写真を見ながらお話をしていたきました。

雲南は亜熱帯気候で花も多く、4毛作です。一昨年には世界花博が行われました。右の写真は棚田ですが、標高差は約2000mあります。上に行くほど田んぼは狭くなりますが、子どもたちは難なく上り下りして働くそうです。勿論すべて手作業です。宮沢先生は陸上の選手としても活躍中ですが、子どもたちに追いつくことができなかったそうです。

「集落はとても貧しいが、そこ住む全員が助け合って暮らしています。」という言葉が印象的でした。

地域の皆様へ

校舎1階に宮沢先生からいただいた写真を展示してありますので、御覧になって下さい。カラーで見ると圧巻です。
朝8時～夕方5時までのいつでも構いません。お待ちしております。

宮沢千秋先生のお父様は、本校初代校長、校歌作詞者の宮沢洋先生です。



学校保健委員会 講演会



5月23日(月)には、児童の心身の健康、体位、体力の向上を図ることを目的に学校保健委員会を開催しました。堀口教育長、秋山子育て支援課長、深澤保健師、中島鯉沢病院長、井上薬剤師、講演会講師、保護者の皆様が出席してくださいました。定期健康診断や学校環境調査の結果について両宮養護教諭が報告し、それに関わってそれぞれの立場で御指導をいただきました。

そして、元養護教諭田中慶子先生から『心も体も元気!』という演題で講演していただきました。児童も参加しましたので、健康生活を送るために親子で共通のお話ができただけでしよう。

★朝ごはんは、脳を動かせるためのスイッチです。脳が活発に働き出すまでに2時間かかります。だから早起きがポイントです。
★一生の健康の源は、小中学校の時点で生活習慣を見直し、健康に過ごして下さい。
(田中先生より)



とてでで書くつ家のおの方者た会
言明い今し日たやで、心大数と小
なものは。立しるつを、子も塾人を境前の
か朝よ早親場たこて改善と体出だ意料の
ら、りく。とを。とかめ段も席けいの
。大早寝をし見傷はらて私が元さで出先
きなくく市い。用本子教がらうれし生
ちささ当とえ子親。てたまにしまし
な団。つてでんがいの私とま、だてが、
て入。といいた。ただまいし今、い
いり。うたな!おだちでうた。回。そだ校
れたか。母きに参内。ほのだ校
かし。しいっ。とさま書容。保時き保
なたと。いただ話んし。にで。護は学健
。と。言。暖お私しのたてなし。者保習委
聞話のて言。いるたの護し員

保護者の感想



病気の象を支える仲間たち

上野動物園や多摩動物公園の園長だった中川四郎さんから聞いた話を紹介します。

多摩動物公園に3頭の象がいました。3頭は生まれた場所も年齢も違うし、勿論血のつながりもありません。6月下旬にその中の1頭が病気になりました。象の病気の治療は大変難しいのです。体温も測れません。測る体温計がないのです。筆も飲みません。象は嗅覚と味覚が大変発達していて、少しでも異物が混じっているものは口にしません。できるだけ手当はするのですが、基本的には自然に治るのを待つということになります。象は病気になると横にならないのです。健康なときは寝るのですが、病気の時は立ったままです。象は大きな動物ですから、一度寝ると立ち上がるのが大変です。病気の時は体が弱っていますので、一度寝ると立ち上がれないことになります。そうすると、自然界の中ではたちまち肉食動物の餌食になってしまいますので、立ったままです。具合が悪いので食事もとれません。

日に日に弱っていき、足がふらつくようになりました。2週間ほどして、思いもかけないことが起こりました。朝、象舎へ行ってみると、病気の象を他の2頭の象が両側から体を寄せて支えているではありませんか。ふらふらしている象が倒れないように支えているのです。そうした様子2週間ほど続いた後、また少し変わりました。今度は1頭の象が片方から支えます。1頭は遊び歩いています。2時間ほどたつと、もう1頭の象と交代します。病気の象が少し良くなったので、交代で支えればよくなったのです。なぜ2時間なのかはわかりません。さらに良くなり、病気の象はかなり元気になりました。しかし、2頭のうちどちらか1頭は、必ず病気の象から4、5メートルの範囲内にいます。病気の象がふらつくと、すぐに近づいて体を寄せて支えるのです。こうして、2ヶ月後の8月には、すっかり元気になりました。

「愛」「友情」「思いやり」「仲間を大切にすること」「共に生きていこうとする心」は、動物すべての本能でしょうか。人間より動物の方がずっと純粋なようです。人間はもっと素直に、もっと純粋に、謙虚にならなければいけないと考えさせられたお話でした。自戒を込めて記します。

北部支会小学校 陸上記録会



壮行会



7人の選手です。
みんな満足顔です。

5月25日(水)には、増穂中学校グラウンドで町内5校の小学校6年生(内3校は5年生から出場)が一堂に会して、日頃の練習の成果を発揮して自己ベスト更新をめざして挑戦しました。

前日には、4年生4人と1年生1人で選手を励ます壮行会を計画してくれたので、挑戦意欲は最高潮に達したことでしょう。本校では、走り幅跳びに4人、長距離走に3人、男女混合リレーに5人が出場し、全員が自己ベストを更新することができました。本校の校庭では200mトラックを設定できないので、初めての挑戦でしたが、7人がベストを尽くしてがんばりました。

自己新記録出せた

五月二十四日の陸上記録会では走り幅跳びに4人、長距離走に3人、男女混合リレーに5人が出場し、全員が自己ベストを更新することができました。本校の校庭では200mトラックを設定できないので、初めての挑戦でしたが、7人がベストを尽くしてがんばりました。

四年児童

五月二十四日の陸上記録会では走り幅跳びに4人、長距離走に3人、男女混合リレーに5人が出場し、全員が自己ベストを更新することができました。本校の校庭では200mトラックを設定できないので、初めての挑戦でしたが、7人がベストを尽くしてがんばりました。

五年児童

五月二十四日の陸上記録会では走り幅跳びに4人、長距離走に3人、男女混合リレーに5人が出場し、全員が自己ベストを更新することができました。本校の校庭では200mトラックを設定できないので、初めての挑戦でしたが、7人がベストを尽くしてがんばりました。

六年児童

子どもたちの作文です



自己ベスト更新

いよいよ陸上記録会の当日になりました。増穂中学校に着いた時、心臓がドキドキしていました。朝の練習の時は、痛みがなくなりました。今日は無理かな。自己ベストはだせないのかな。と思いました。

陸上記録会は終わってしまいました。私にとっては、最後の陸上記録会でした。増穂小の人も仲良くできました。話さず、自信を持って練習をがんばることができたので、うれしいです。

出前児童館教室



「かざぐるまとぶんぶんごま」の工作は、ボランティアの鈴木昭吾さんが教えてくれました。



朗読「金子静可」の世界は並瀬校長です。



この日、八幡町に井土橋先生が来て下さった。

6月7日の放課後、かじかざわ児童センター職員による「児童館出前教室」を行いました。当センターは、増穂中学校の近くにあり、土曜日にも開館していますので、御利用ください。本校の児童は授業日には利用できませんので、児童館の職員が出向いて教室を開設してください。

外部講師による道徳授業

山梨県では、「個性を生かし、生きる力をはぐくむ「やまなし」人づくり」を基本目標として、その施策として「豊かな心の育成」に取り組んでいます。そのために、道徳教育の一層の充実に努めています。

本校でも道徳の時間(年間35時間)を要として、全教育活動を通して道徳実践力の育成を図っています。人間尊重の精神や生命への畏敬の念はもとより、社会生活上のルールや基本的なモラルなどの倫理観の醸成を図り、人間としてよりよく生きようとする力が育成されるよう指導の充実に努めています。

そこで、5年生を対象に「ことばについて考えよう」という道徳の授業をSSWの土橋士郎先生にお願いしました。子どもたちの手紙と土橋先生からのお返事を一部紹介します。



土橋先生へ
☆私は土橋先生の道徳の授業で「ことばは人を傷つけたり喜ばせたりする」ということやマザーテレサの言ったことを教わりました。
(中略)
☆お近づきゲームでは、人との相性がわかることを知り、愛の反対は憎しみではなく無関心ということがわかりました。マザーテレサの方の愛の反対は無関心ということがわかりました。地震で被害を受けた人のことを考えることも大事だということもよくわかりました。
☆一日五回苦手な人の前で微笑むと人との関係がよくなるので、土橋先生がくれた「いいから」という言葉を使いたいです。

五年生のみなさんへ
この間は、皆さんの温かい思いやりのおかげで、楽しく過ごしました。本当にありがとうございました。六人がお互いに良いところを認め合いながら、協力し合っていました。一人ひとりの力を出し合って、がんばってほしいと思います。
(中略)
私のような初めて出会った人にも、あんなに温かい人はいないと思います。クラスです。自信を持って、増穂小学校でもがんばってほしいと思います。日ごとに進歩が感じられます。手紙を書きまいた。この後も続きますが、略させていただきます。その後子どもたちの手紙へのお返事もいただきました。